

平成 27 年 12 月 1 日

京口門だより No. 26

秋の紅葉もはつきりしないまま師走に入ってきました。「あたたかき雨も降りなり年の暮」（中川宋淵）長引く風邪がはやっています、ご注意ください。

最近のニュースでは日本の医療費は年間 40 兆円にもなると言われています。日本の年間予算の三分の一位になりそうです。そうなるにはいろいろな原因があると思われませんが、ひとりにつき医療機関から処方される薬が多すぎることや、飲まないで放置された薬も多いと言われています。病院では出された薬は簡単には減らしてもらえないし、増える一方ということもあります。何か症状を訴えたとすぐに薬が増え、結局たくさんの薬を飲まねばならないこととなります。このごろは薬局でも余ったお薬はありませんかと尋ねられるようで、処方するほうも気にかけているようです。一方、薬を作るほうの製薬会社では製造原価の薬価が儲けすぎとして、抑えられるということも起っているようで、製薬会社も一部では苦しい状況に追いこまれているようです。

医療費の増加は薬のせいだけではないでしょうが、極端な例で手のひら一杯の薬とかいうことは困ったものです。特に高齢者ではいろいろな症状が出てきて、そのつど薬が増える傾向があります。そのために副作用が起きて、薬を減らしたり、止めたりすると副作用が治まるというような笑えないような話もあります。

私は高齢者の方にはなるだけ漢方薬で治療されることを勧めたいです。現代医学でよく見られる個々の症状にそれぞれ薬を当てはめるのではなく、漢方ではそれらの症状を起こしてくる背景の原因を見出し、それを漢方薬で治してゆくことによって、自然に個々の症状が治ってゆくというやり方を取りますから、一つの漢方薬で多くの症状を治してゆくこととなります。多く薬を出す必要がなくなります。経済的にも役立ちます。

また前にも言ったかもしれませんが、細菌やウィルスの感染症でもすぐに抗生物質を使い、使いすぎのために耐性菌ができることが問題になっていますが、感染症にも漢方薬を使えば、抗生物質の使う量も最小限ですみますし、無駄に使うこともなくなります。

むろん必要な現代医薬や抗生物質は使わねばなりません、漢方薬をうまく使えば有用ではないかと思えます。

